

## 令和元(2019)年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	生体の酸化ストレス応答の分子メカニズム解明とその疾病予防・治療への応用
研究代表者	山本 雅之 (東北大学・大学院医学系研究科・教授) ※令和元(2019)年7月末現在
研究期間	令和元(2019)年度～令和5(2023)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>本研究は、酸化ストレス応答に重要な役割を果たす KEAP1-NRF2 系の調節機能、とくに複数のシステインを介した酸化ストレス受容の分子メカニズムを生化学、細胞生物学、構造生物学を駆使して明らかにした上で、様々な病態モデルに還元し、疾病予防・治療に応用しようとする、独創性の高い包括的な課題である。</p> <p>KEAP1-NRF2 系を中心とする酸化ストレス応答メカニズムの構造・機能相関の詳細が解明され、老化、炎症をはじめとする疾患の治療・予防への応用が展開するものと期待できる。</p>